

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 GAP農産物拡大事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内4116)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：8,800 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,800	4,400	0	0	0	0	0	0	4,400
要求額	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000
決定額	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・ 令和2年度に農業者が取り組みやすいGAP制度として、県が国際水準GAPに準拠した109項目について農場評価する「ぎふ清流GAP評価制度」を創設した。
- ・ GAPの実践には食品の安全性を高めること等に必要な施設改修や備品の導入、また残留農薬等の検査が必要である。これに加え、国際水準の民間GAP認証を取得するためには審査受審費や審査員の旅費が必要となり、生産者への経済的な負担が大きい。
- ・ ぎふ清流GAPの認証者及び国際水準の民間GAP認証者を増やすためには、これらの負担を軽減し、農業者が取り組みやすくする必要がある。

(2) 事業内容

(1) GAP実践条件整備支援、分析支援

- ・ GAPの実践に必要な施設改修や備品の購入、各種分析費用の実施を支援。

(2) 国際水準GAP認証取得支援

- ・ JGAPやASIAGAP、GLOBALG. A. P. の認証取得にかかる費用

【事業実施主体】 GAPを実践する農業法人、農業者の組織する団体、農業者

(3) 県負担・補助率の考え方

県1/2以内（取り組むGAPが国際水準であるもの）
もしくは県1/3以内（取り組むGAPが国際水準でないもの）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	8,000	・施設の改修や備品の購入、残留農薬検査や水質検査の費用 ・国際水準の民間GAP認証取得に必要な受審費や審査員旅費
合計	8,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（施策編）
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(1) 地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信
⑤「『清流の国ぎふ』ブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
(2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

・令和2年3月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画においては、「令和12年度までにほぼ全ての産地で国際水準GAPが実施されるよう、現場での効率的な指導方法の確立や産地単位での導入を推進する。」としている。

・令和7年度に開催される大阪万博の食料調達基準は、グローバルGAP等の国際水準GAPの認証農産物及び農水省の国際水準GAPガイドライン準拠の都道府県GAP農産物が優先される予定。

(3) 後年度の財政負担

今後の財源の動向：一般財源

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

「ぎふ清流GAP評価制度」は、県独自の制度であり、県が事業を行うのが妥当。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	GAP農産物拡大事業費補助金
補助事業者（団体）	農業法人、農業者の組織する団体、農業者 （理由）GAP（農業生産工程管理）は農業者が実践するものであるため。
補助事業の概要	（目的）国際水準GAPの推進 （内容）国際水準GAPの実践に必要な生産出荷施設の改修や備品の整備に要する経費を支援する。
補助率・補助単価等	定率 （内容）1/2もしくは1/3以内、ハード事業は上限額1,000千円 （理由）スクビル前の事業と同水準。
補助効果	県内農業者にGAPの取り組みが普及・定着する。
終期の設定	終期 令和7年度 （理由）「ぎふ農業・農村基本計画」の令和7年度の目標達成に向け、ぎふ清流GAPの実践者の増加を図る上で、農場評価、相談対応の支援は不可欠である。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか
ぎふ清流GAPの実践率を令和7年度までに35%に増加させる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①ぎふ清流GAPの実践率	19.2%	19.2%	15%	30%	35%	55%

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	5,704	6,423	5,463

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %
令和 3 年度	
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %
令和 4 年度	
	指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後、農業者の組織の取組みが増加することが想定され、それに伴い要望額に対応できない可能性がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 国の目標に呼応し、2030年度までに県内ほぼ全ての産地で国際水準のGAPを実施している状態とするためには支援が必要。
--